

## ※免疫抑制剤治療

免疫抑制剤はもともと抗がん剤という分類に含まれていました。

しかし、この中のいくつかのものは、少ない量で免疫抑制効果が得られることが分かり、膠原病の治療に用いられることになりました。

その作用を簡単に説明すると免疫に係わる細胞の分裂や増殖を邪魔して、免疫反応を抑えるというものです。

免疫抑制剤は通常、内服使用しますが、その効果が現れるまでに2～4週間はかかるといわれています。

残念ながらこの免疫抑制剤にも副作用があります。

ステロイド剤が免疫抑制効果で治療効果をあげると同時に感染しやすいという副作用を持っているように、この薬も免疫を抑制することが治療であり、副作用でもあるわけです。

ステロイド剤と同じく治療効果と副作用とのバランスを上手く取ることができるならば、膠原病の治療に欠かせない薬とすることができるでしょう。

各免疫抑制剤の代表的な副作用が必ず現われるということではありませんが、感染しやすいというのは共通の副作用といえますので予防対策は十分に取るようにしてください。

また、それ以外の副作用が現われることもあるので、主治医からよく説明を受けるようにしましょう。

少しでもおかしいと気付いたらすぐに主治医に伝えることも大切です。

